

がんは早期発見、早期治療で治すことも可能です 年に1度はがん検診を受けましょう

当健保組合では各種がん検診の費用補助をしています



■ 「早期がん」を発見できるのはがん検診です

がんのことを正しく知っていれば、がんを予防することも、早期に発見して治すことも可能です。しかし、がんの多くは、早期のうちには自覚症状がほとんどなく、気づいたときにはかなり進行していることが少なくありません。「早期がん」のうちには発見するには、定期的に検診を受けることが必要です。健康だと思っているときこそ、がん検診を受けましょう。



■ 当健保組合でがんの医療費が最も高いのは「肺がん」

当健保組合のがん治療に対する医療費が最も高いのは「肺がん」です。2019年度は2018年度に比べ59%も増加しています。罹患数は「乳がん」の20%ほどなのですが、医療費は「乳がん」を超えています。このことから、「肺がん」は重症化しやすいことがわかります。「肺がん」を防ぐにはまず禁煙。そして検診を毎年必ず受けるようにしましょう。そのほかのがんで罹患数が多いのは「大腸がん」「胃がん」と続いています。

肺がん



がんは治せる病になりつつありますが、例外なのが「肺がん」です。見つけにくいうえ、進行が早く、転移もしやすいため、難治がんの一つに挙げられています。40歳以上の方と喫煙者は、検診を毎年受けましょう。
(被保険者は定期健康診断で実施されています)

乳がん



「乳がん」は「乳腺」にできる悪性腫瘍で、女性がかかるがんでもっとも多いがんです。発生や進行には女性ホルモンが影響しており、女性のライフサイクルや生活習慣の変化から、近年大幅に増加しています。40歳から50歳代に多いのが特徴です。「乳がん」は早期に治療をすれば予後が良いため、症状が出る前に検診で早期発見することが大切です。

大腸がん



この約20年の間で患者数が2倍以上に増え、罹患率が最多となりつつあるのが大腸がんです。適切に治療すれば治りやすいといわれていますが、肛門から遠い部位にできたがんは見つかりにくいのが特徴です。早期発見のためには毎年の検診が重要です。

胃がん



「胃がん」は診断や治療の進歩で治りやすいがんの一つといわれるようになりました。早期にがんを発見することが大切で、進行前のがんを発見できるかが治療の重要なポイントになります。

詳細につきましては、当健保組合のホームページをご覧ください。



■ 当健保組合の各種がん検診の費用補助

	胃がん検診： 胃部X線検査・胃カメラ	1回/年	40歳以上の被保険者および被扶養者
	大腸がん検診： 便潜血反応検査(2日法) 【注】大腸内視鏡検査は対象外		40歳以上の被保険者および被扶養者
	子宮頸がん検診： 子宮頸部細胞診 【注】子宮体部細胞診は対象外		20歳以上の女性被保険者および被扶養者
	乳がん検診： 視触診・マンモグラフィ・乳房超音波(エコー)		30歳以上の女性被保険者および被扶養者

※被保険者のがん検診(胃・大腸がん検診)は、一部事業所で集団検診を実施します。実施されない事業所の方はお住まいの市区町村が実施するがん検診か最寄りの医療機関で受診してください。

■ 自宅でできる郵送式がん検診もあります

	大腸がん検診： 自分で採取した便を検査機関に郵送して行う検診です。	1回/年	小規模事業所・40歳以上の被保険者
	前立腺がん検診： 自分で採取した血液を検査機関に郵送して行う検診です。		50歳以上の男性被保険者
	胃がんリスク(ピロリ菌)検診： 自分で採取した血液を検査機関に郵送して行う検診です。 (次回は2021年度に実施します)	1回/3年	30歳以上の被保険者および被扶養者

高温多湿のこの時期は

食中毒にご注意!

ムシムシと暑い夏は熱中症対策に目を奪われがちですが、食中毒対策も重要です。食中毒を引き起こす主な原因は、「細菌」と「ウイルス」です。細菌は温度や湿度などの条件がそろえば食べ物の中で増殖し、その食べ物を食べることで食中毒を引き起こします。一方、ウイルスは低温や乾燥した環境内で長く生存し、細菌のように食べ物の中では増殖しませんが、食べ物を通じて体内に侵入すると腸管内で増殖し、食中毒を引き起こします。食中毒になると、激しい嘔吐や下痢などの症状から脱水症状になってしまうことも。また、抵抗力が落ちると感染症にかかる可能性も高くなります。食べ物の管理だけでなく、食器なども清潔に保ち、食中毒を予防しましょう。



詳しくはWEB▶

